



第一印象に磨きをかける身だしなみ ～3年生マナー講座～

唐突ですが、「人は見かけによらぬもの」という諺(ことわざ)があります。「人の本当の性格や能力は、見た目の印象や外見だけでは判断できない」という意味です。まさにそのとおりです。しかし、この諺が成立し存在するということは、例外はあるものの、古来「人は見かけによる」事例の方が多かったことの裏返しです。



「吉川高校生の成長物語」第26回は、1月18日(木)に3年生が受講した「START of NEW Life スーツ着こなし講座」の様様を紹介しします。

講座の趣旨は「重要な『第一印象』に磨きをかける!『身だしなみ』」について理解することでした。「人の第一印象は6～12秒で決まる」ことや、その際「表情や身だしなみなど視覚情報の影響が最も大きく、55%を占める」こと、「おしゃれと身だしなみは違う」こと等について話を聞いた後、男女各1名の生徒がモデルになり、「スーツを自分のものにするためのポイント」を、実習をまじえながら具体的に学びました。

服装は「礼節」にも通じます。3年生の中には制服の着こなしを繰り返し注意されてきた者もいますが、今回の講座で「TPO(時・場所・場面(目的))に応じて、何をどのように着るか」で自分の印象や評価が大きく変わることや、自身の人間性をも判断されることを理解しました。

卒業を控え、社会に出るための準備が一つ整いました。



獅子搏兔 ～1学年主任が書き初めに込めた思い～



紹介するのが遅くなりましたが、1年生のHR教室に向かう途中、階段の踊り場には、学年主任が今年の干支「卯」にちなんでしたためたイラストと書き初めが掲示されています。

「獅子搏兔」(ししはくと)。あまりなじみのない四字熟語かもしれませんが。百獣の王ライオンはうさぎを捕まえる時も必死なことから転じて、どんな時も手を抜かず、全力を尽くすことのとえ、つまり、簡単なことでも全力で取り組むべきだという意味です。仕上げの3学期を迎え、生徒一人一人に「有終の美」を飾ってほしいという願い、あるいは1学年団として「有終の美」を飾るんだという決意が伝わってきます。

ちなみにこの作品、学年主任はけして「筆を走らせた(=すらすらと書いた)」のではありません。完成までには百枚近くもの半紙と相当な時間、そして何より集中力を要したことを、生徒の皆さんのためにあえて付記しておきます。

蛇足ですが、「獅子搏兔」だと、今年の主役うさぎは弱者の象徴なので、汚名返上、名誉挽回。令和5年が1学年団(51回生)にとって「うさぎの上り坂」の1年となることを、切に祈念します。

